

校訓

## 正しく 明るく 健やかに

7月13日発行



## 「みる」ということ

校長 加藤 弓子

「素晴らしい動き出し、受け手と出し手のタイミングでした。ぴったり!」「そろそろいける気がする。流れいいよ!」

サッカーワールドカップ日本代表戦での本田圭祐さんの解説です。オランダ戦では、この言葉からわずか数秒後、コーナーキックから日本の同点ゴールが生まれました。チュニジア戦では、「今日は上田さん、絶対点取る気がする」「力抜けてると思うんです」と話した直後に上田選手が得点。ブラジル戦では、「怖いですね。いろいろずれてきてますね。伊東さんと前田さんがずれてきて、いるべきところにいていない」と指摘すると、その数分後にブラジルがゴールを決めました。「予言」とも言われるような解説が話題となりました。もちろん断定はできませんが、本田さんの言葉は、決して勘だけで生まれたものではないと感じます。長年の経験から、選手一人一人の動きや表情、試合の流れを細かく「みて」いるからこそ、その変化に気付けるのだと思います。

私も、毎日通う道の景色を「みている」はずなのに、建物がなくなってから初めて「あれ、前は何かあったかな」と思うことがあります。それは「みている」というより、「目に入っている」だけなのかもしれません。人は、そのときの気持ちや意識によって、同じものをみても、みえるものが変わります。同じサッカーの試合をみても、私と本田さんでは、きっと「みえている」ものが違うのでしょう。

「みる」という言葉には、「見る」「観る」「視る」のほか、「診る」「看る」など、さまざまな漢字があり、それぞれに意味が少しずつ違います。

日々、刻々と成長する子どもたち。「子どもたちをちゃんとみているだろうか」。これは、私たち教職員がいつも自分に問いかけていることです。時には様子をしっかりと「観る」、変化を注意深く「視る」、困っている子には寄り添って「看る」。そして、あえて何も言わず、成長を信じて見守ることも大切です。

学校だけでなく、ご家庭や地域でも、子どもたちはたくさんの人の温かなまなざしに支えられています。さまざまな立場の人が、それぞれの「みる」で子どもたちに関わることが、子どもたちの安心や自信につながり、大きな力となって成長を支えていくのだと思います。

## コミュニティ・スクールを行いました。

コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会を設置し、地域住民や保護者などが学校運営に参画する仕組みのことです。学校と地域が連携・協働し、地域とともにある学校づくりを進めることを目指しています。

6月29日（月）に今年度1回目の品野中学校ブロック学校運営協議会が開催されました。

話し合いのテーマは「子供たちへ伝えたい地域の魅力」でした。岩屋堂や中馬街道といった学区内の名所や、自然の豊かさ、祇園祭などたくさんの魅力が語られました。その中でも、地域を支える方々の温かさが何度も話題にのぼり、改めて品野中学校の子供たちが地域の方々に支えられ成長していることに気がつきました。



## スクールカウンセラーだより

### 「心の支え」

スクールカウンセラー 西真裕

子どもが安心して学校生活を送るためには、勉強や友達との関わりだけでなく、「困ったときに相談できる人がいる」という安心感も大切です。

家庭では保護者の方、学校では担任の先生や、教科担当の先生、部活動の先生、校長先生や教頭先生、養護教諭やスクールカウンセラーなど、信頼できる大人がいることは、子どもにとって大きな安心につながります。困りごとをすぐに解決することだけが大切なのではなく、自分の気持ちに耳を傾けられ、話を聴かれる体験は、子どもに安心感をもたらすことがあります。そして、自分の話をすることで気持ちが整理されたり、「自分のことを気にかけてくれる人がいる」と感じられたりすることが、子どもの心の支えになることもあります。

季節的にも疲れが出やすく、特に3年生はこれから進路などへのプレッシャーを感じやすくなります。家庭や学校で安心して話せる大人がいることは、「自分を気にかけてくれる人がいる」「一人ではない」と感じられるきっかけになることがあります。そのような安心感が、子どもたちの毎日や、学校生活を送るための土台になればと願っています。

☆8月9月スクールカウンセラー来校日（在校時間11:30-16:00）

8/5（水） 8/28（金） 9/4（金） 9/11（金） 9/25（金）

※カウンセリング内容は生徒さんにかかわることであれば何でも構いません。

ご希望の方は学校までご連絡ください。